

# 令和7年度第2回 岡崎市美術博物館協議会会議録

## 1 開催日時及び場所

令和8年2月13日（金）14:00～15:45

岡崎市美術博物館 1階会議室

## 2 出席委員（定数10名 1名欠席）

|       |       |             |       |        |
|-------|-------|-------------|-------|--------|
| 会 長   | 井上 瞳  | （学識経験）      |       |        |
| 副 会 長 | 野田 光宏 | （社会教育・家庭教育） | 成田 隆行 | （学校教育） |
|       | 長坂 博子 | （学校教育）      | 林 羊歯代 | （学識経験） |
|       | 太田 公典 | （社会教育）      | 山本 秀樹 | （社会教育） |
|       | 荒井 信貴 | （学識経験）      | 三輪 哲也 | （市民公募） |

（欠席委員は、広瀬 八重子（市民公募）1名）

## 3 館長及び説明のため出席した事務局職員（7名）

|           |       |            |        |
|-----------|-------|------------|--------|
| 美術博物館特任館長 | 榊原 悟  | 美術博物館長     | 大澤 一実  |
| 美術博物館副館長  | 原林 基昭 | 美術博物館管理係係長 | 鈴木 由香里 |
| 地域文化広場館長  | 亀井 実  | 地域文化広場副館長  | 天野 幸枝  |
| 美術館長      | 倉橋 浩二 |            |        |

## 4 会議の成立

事務局より、委員10名のうち9名が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

## 5 会議の内容

### 次第1 報告事項

（1）令和7年度 展覧会開催状況について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和7年度に実施した地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝議題ではないが、地域文化広場の大屋根完成オープニングイベントに私は行けなかったが、代わりに家族が伺ったのでコメントをこの場で説明する。子どもの

ことを考えると非常によい。実際あの日雨だったので、大屋根があるとよいと改めて実感した。あと音響が思ったよりよいと家族は実感していた。先ほどの会長の挨拶で地域文化広場として、この地域で親子が楽しめる場になるとよい。後日、自分も見て実感した。

事務局＝大屋根に関しては、あとで報告する。

委員B＝「子どもたちのアール・ブリュット」、この間の「リトルアーティスト展」の審査会のあとにじっくり見た。前回作品にキャプションがあるよいと提案したら、今回素敵なキャプションが入っていた、盲学校の生徒の写真入りで、細かく書かれていた。盲学校を知らない人は全盲の子供たちがいると思うのに、作品を作っている写真を見たら疑問に思う人もいる。調べてみたら、盲学校の全盲は1割でロービジョンの生徒たちも多いので、細部のコメントがあるとよい。キャプションが充実していくとよい。今回も大きくてカラフルな、立派な作品があつてとてもよかった。

事務局＝キャプションについて意見をお伺いし、ブラッシュアップしていく。

議長＝入場者数の最高と最低にかなり差がある、最低はどういう日か。

事務局＝平日の火曜日は少ない。

議長＝土日が多くて、この開きがすごい。平日はお子さんも学校がある。

事務局＝平日、子どもたちは学校からバスの送迎で、造形センターを利用している。

人数の少ない平日はゆったり利用できる。お客さんを増やすのは難しい環境である。

議長＝考えられるのは未就学児ですが、最近は少ない。皆さま、何かお知恵がありましたら。そのほかには。

委員C＝岡崎市美術博物館の展覧会ではないが、豊橋市美術博物館で「多史濟々・天下人の交差点」という展覧会が開催された。今、預かってもらっている収蔵品をつかって組み立てた展覧会だが、非常に良かった。家康の花押が並んで、年代ごとに変わっていく様相が分かり、岡崎市の美術博物館でも展示したことがない町中にある古いお寺の足利関係の資料が一覧で並んでおり、岡崎で見たことがない展覧会でした。豊橋の学芸員に聞いたら、主導は岡崎の学芸員が展示をして、非常に面白かったという話を聞いている。ただ一つだけ気になったのは、豊橋でよい展覧会をやっていたが、「三河武士のやかた家康館」の企画展「生誕500年記念 松平広忠」で広忠の重要な資料が、岡崎市美術博物館の寄託資料を改装工事のため豊橋市美術博物館に預けていたことから家康館で展示されていなかった。美術博物館と家康館の連絡協議がうまくやれなかったのか気になる。美術博物館の改修工事で何も外に出さないよりも、豊橋市美術博物館で預かってもらっているところで展覧会ができるのは非常にいい機会だった。もう少し岡崎を宣伝してもよかった。

事務局＝今回、収蔵庫も含め館内全体の空調が止まる期間が、1か月程度の予定が、3か月になってしまい、預ける資料や作品を増やしたところ、豊橋市の学芸員と当館の学芸員で、展覧会を開催することになり、豊橋市が主催であるため、委員の皆様へはきちんとご案内できなかった。

家康館の件は、行き違いがあり豊橋に運ぶ算段となってしまった。

委員B＝豊橋の展覧会では岡崎市所蔵かどうかわかりますか。

委員C＝全部ではない。

事務局＝1点だけ豊橋市の図書館にお借りしましたが、あとは岡崎市美術博物館の所蔵資料か、寄託資料です。

委員B＝タイトルには入ってないのか。行けなかったが、何かで宣伝しましたか。

事務局＝インスタとかで、豊橋市での開催なので岡崎市ではないから間違えないような案内を意識した。

委員A＝何度も収蔵品を見ていてすばらしいと思う一方で、どうやって今からハイライトしていくのか、一つテーマとしてあると感じている。今回の「モノのなまえ事典展」でも、レイアウトもすごいと思うが、ぷちぷちで遊び疲れた若い子が、実はお宝で、良いものが並んでいても、どうしても通過してしまう。収蔵品のすばらしさをうまくハイライトしていくのは、一つ大きなテーマのような気がする。「子どもたちのアール・ブリュット」も、とてもピュアでインパクトがあって、自分はとても好きだが、2階で常設というレイアウトの苦しさがある。「子どもたちのアール・ブリュット」のすばらしさをハイライトできるとよい。地域文化広場の展覧会に来るたびに、駐車場の車が半分くらい市外ナンバーである。それだけ認知度があると推定でき、そこを生かしたいと感じた。

委員B＝「天才見つけた」という発言を覚えている。前はものすごく特殊な大人びたものの見方をした顔を描いた作品があったが、キャプションがなく、どんな子なのかもわからなかった。「子どもたちのアール・ブリュット」に対して、賞がふさわしいかわからないが、話題性や、クローズアップするための機会を設けたらどうか。すごい作品なので、本人に表彰できる機会があるとよい。

議長＝これは検討課題だと思います。

## 次第2 議事

### (1) 令和8年度 開催予定の展覧会について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和8年度開催の展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝只今の説明についてご意見ご質問があればお願いいたします。

委員C＝「樋口一成 木のおもちゃ展」（仮称）とか「わくわく鉄道博物館2026」（仮称）は、2年おきの開催か？

事務局＝「わくわく鉄道博物館」は前回令和6年度に開催。「樋口一成 木のおもちゃ展」は前回令和5年度開催、今回で4回目となる。

委員D＝収蔵品展が予定されている、コレクションの中から選んでということか。

事務局＝当館の収蔵品で、学芸員がそれぞれの専門的な分野で30年間の収蔵品を中心に展示します。

委員D＝これまでも絵画の展示があったが、工芸もぜひ展示してほしい。

事務局＝学芸員に伝えておく。

委員D＝国島征二展は、ぜひ内容を充実したよいものにしてほしい。前に話がでたが、岡崎の小学校に作品があるが、まとまった展示品を見た覚えがないので、この機会に実物をたくさん見てみたい。全国的にもよい展覧会になると思う。ぜひ、実物を展示する機会にしてほしい。

議長＝この展覧会は巡回するのか。

事務局＝今のところ予定はしていない。

委員C＝テレビ番組「ポツンと一軒家」で国島先生の家が出てきた。地元の方はご存じだが、岡崎でも知らない方が多い。ぜひとも展覧会を機会に知ってもらいたい。

委員B＝美術博物館の収蔵品展について、事前に資料をもらい、聞いたかったが、「窓－そこに介在するもの」最後の3行に美術作品や歴史資料を見るということはどういうことか改めて再考する機会を提供する、すごく面白い。どういう風に提供してくれるのか。どういうことを企画しているのか。期待がすごく大きい。「受胎告知」が出るとのこと、あまり現代にはなじみのない宗教画を見る。どんな形で再考させてくれるのか。

事務局＝学芸員が8名おり、学芸員の専門性の中で、「窓」という統一のテーマで、内側、外側から見る形で、どういった見せ方をするのか、全体として統一感を目指している。どういう形で見せるのか、それぞれが一生懸命熟慮している。

委員B＝学芸員の個性が出てくる。

事務局＝個性を出しつつ美術博物館が30年やってきたことを、どういった形で着地するか一生懸命考えている。

委員B＝「窓」という切り口は面白いと思う、どういう風に展示をされるのか気になり、期待を込めて質問した。

委員A＝美術博物館は9月13日までの収蔵品展から企画展「四季にうたえば出光美術館名品展」の10月17日までアジア大会で休館とのこと。地域文化広場は9月13日に夏季企画展「ピラミッドサイエンス展」が終わり次の秋季企画展「はしもとみお展」が9月19日に始まるが、地域文化広場は影響なしということか。

議長＝そういうことになる。そのほかは。

委員F＝「子どもたちのアール・ブリュット」と、「リトルアーティスト展」の作品だが、違いがあるのか。区別をすることがいいのか、作品が違うのか、区別をした見方をしていないか、いろいろ考えてしまう。例えば「リトルアーティスト展」の中に「子どもたちのアール・ブリュット」の作品があるとか、その作品の背景に子供がいて、その子の特性がある、「リトルアーティスト展」の子たちの作品もその背景に子供がいる。自分自身が今、俳句短歌を子供から募集していて、特別支援の子たちが入選、入賞すると保護者は喜ばれる。うちの子にこんな才があったのかという。特別支援とかはわからないように、審査している。「子どもたちのアール・ブリュット」の作品が「リトルアーティスト展」のなかに入っていたらと思うところがある。

いいのか悪いのかも含めてその企画はどうだろうと考える。「子どもたちのアール・ブリュット」や「リトルアーティスト展」は、応募時点で、どこまで配慮が必要か、企画をする側は考えなければいけないと思う。

議長＝これは一度、内部で話をして、教育委員会と調整したらどうか。

委員G＝「リトルアーティスト展」は市内にある小中学校や園や画塾や県立の学校から広く応募がある。特別支援や養護学校等からも応募があり、審査をして選ばれた作品がリトルアーティスト展に飾られている。前期後期あるが、「子どもたちのアール・ブリュット」後期は特別支援学校に別で依頼をして保護者の許可も得て作品が飾られている、前期は、「リトルアーティスト展」の選考漏れの作品が飾られている。選考に漏れた特別支援学級と養護学校の子供たちの中から、全員許可をもらい飾られている。「リトルアーティスト展」も、もちろんですが「子どもたちのアール・ブリュット」も子供たちは選ばれると嬉しいし、保護者も我が子の作品が「子ども美術博物館」に飾られることで、本当に喜ばれて見に行かれる。「リトルアーティスト展」は案内が学校に来ているが、今、市内の学校巡回郵便の兼ね合いでチラシが配れない。情宣は大事だとこの会議でもですが、「子どもたちのアール・ブリュット」は全員にチラシは配ってない。入選した子と、許可をもらって飾っている子にしかチラシが配られず、特別支援の先生は知っているが、知らない先生が多い。地域文化広場の体験型の企画展は小中学校の先生にも人気です。造形教室では午前中は造形を楽しみ、企画展も見に行くが、「子どもたちのアール・ブリュット」が2階にあることを伝えるが、1階の企画展を見たあと、お弁当になって、時間がなくなるようだ。

委員G＝学校にすら知名度がないが、特別支援の保護者には話題の展覧会で、我が子の作品が地域文化広場に展示されて喜ばれている。市内の学校にチラシが配布できないが、ホームページ等、広がる何かあればいい。

議長＝予算的なこともあるが、内部で検討してほしい。

委員E＝今回、地域文化広場の企画を全部見せてもらった。入場者数を見ると、子供が多いように見えるが、大人も同じくらい見に来ている、「モノのなまえ事典展」で特に感じたのが、キャプションの位置が低すぎる。子供対象とはいえ、大人は見にくい。キャプションが読めなくても済む内容もあったが、「モノのなまえ事典展」は結構説明がある。読みにくく文字が小さい、大人にも子供にもちょうどいいキャプションの高さがあってもいい、子供だから低いとは思いますが、入場者数的に言うと、大人も見やすいキャプションの高さを検討してほしい。

議長＝キャプションの内容にもよるが、どちらを取るか難しい話になる。

事務局＝「モノのなまえ事典展」に関しては小学校の3、4年生がターゲットの内容で、子供が自ら触って読めてというところを考えると、キャプションが低めな設定になる。大人の方から見ると低いと感じてしまうところではある。

委員E＝結構面白い内容で、大人も知りたい内容だが低い。企画によって変えてもよいのではないか。

議 長＝ぜひご検討いただいて。あと何かありましたら。

委員H＝「モノのなまえ事典展」面白かった。入口が小さいので、実物大から、随分ゆとりのある配置で、見やすかった。大人が面白いと、子供には少し難しいかなと感じた。大人が読んだらすごく読みごたえもあるし面白いけれども、子供は読み切れてないと思う。「子どもたちのアール・ブリュット」は知らなくて、今回初めてみた。

議 長＝キャプションの内容は学芸員では難しいところもある。学年でどれくらい理解ができるか、学校などと連携できるとよい。別の自治体だと教員が教育普及担当のともある。岡崎市はないが、愛知県だと科学館とか博物館に教員の教育普及担当があるので、連携して尋ねたりできるとよい。

議 長＝それでは、ご意見も尽きたようですのでお諮りします。令和8年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

(全員承認)

議 長＝令和8年度開催予定の展覧会については、承認されました。先程多くの意見が出ましたが、事務局はただいまの意見を踏まえて、来年度予定されている展覧会をよりよいものにするために準備を進められるようお願いいたします。

## (2) 令和9年度開催予定の展覧会について

事務局＝(令和9年度開催の展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明)

議 長＝只今の説明についてご意見ご質問があればお願いいたします。

委員D＝美術博物館での「10代作品コレクション展」、私も地域文化広場に行くたびに面白いと思っている。美術博物館でやることは意味があると思う。横尾忠則の高校生の時のポスターがあるが、その作品が大人になってからの代表作との関係でどこが素晴らしいか解説があるといい。若いときに描いたものなので技術的な稚拙とっては失礼ですが、高校生の作品かと通り過ぎてしまう。その後どういう風にながめるのか、どこが素晴らしいとか解説がほしい。「ファントムを探して」のシュールの作品も興味深い。これも前後の美術の動向の中にどうしてあるのか、今シュールの作品から現代美術のデュシャンの作品からの流れが今の現代美術の大きな流れ、具象であっても流れの中にあると思う。解説があれば変わった絵だ、で終わらない。シュールな作品の展覧会はびっくりするような絵が並んでいるが、美術史的な部分も分かるとよい。

事務局＝学芸員に伝えます。

委員E＝作品だけで語るのは、本人が語れば別ですが、本人がここに影響を受けて、今自分がここにあると本人が語る以外は、見る人が感覚的にとらえてよいのかと、こういう風に違いないと述べるというの分かるが見る人に任せてもよいと思う。

委員D＝そうかもしれない。作家自体を知らないなので、説明がないと。横尾忠則といっても知らない人には必要ではないか。

委員E＝それすごく賛成だな。

議長＝この中で、巡回展はあるか。

事務局＝3本目の企画展「ポローニャ大展」です。

委員D＝「スイッチ展」に、副題をつけてほしい。この前の時もスイッチがいっぱいあると思っただけでなかった。題名を見て興味を引くし、内容を想像して違うと、面白いと思う、具体的な必要はないが、副題があるとよいと思った。

委員G＝中央総合公園内の美術博物館の周りで、「おかざきっ子展」を毎年10月中下旬に開催している。第2第3あたりの土日に市内全小中学生の作品の野外展で、2日間で親子や祖父母が、約6、7万人来る。その時に美術博物館の企画展を案内できるとよいが、内容が難しい企画展だと寄ってもらえない。令和5年度の「至高の紫 典雅の紅 王朝の色に挑む」の時は宣伝したが難しかった、令和9年度の企画展「ポローニャ大展」(仮)は巡回展が、例えば、収蔵品展「はじめはみんな子どもだった おかざき世界子ども美術博物館10代作品コレクション」(仮) 収蔵品展「あの頃のあそび展」(仮)とか、タイトルで小中学生の心くすぐられる内容の企画展だと「おかざきっ子展」の後、家族で美術博物館に足を運ばれると思う。小中学校との連携という話もあり、美術博物館の周りで展示する野外展を通して、図工美術、美術作品に触れてほしいので、令和9・10年度は「おかざきっ子展」を視野に入れて展覧会を考えてほしい。

議長＝小中学生だけがターゲットではないのでなかなか難しいところもある。全部にどう訴えればよいか。

委員G＝9年度の展覧会でいうと収蔵品展「はじめはみんな子どもだった おかざき世界子ども美術博物館10代作品コレクション」(仮) 収蔵品展「あの頃のあそび展」(仮)なら良いと思う。企画展「ポローニャ大展」(仮)だと難しそうなのがするせつかくなら来た方々に、美術博物館に寄ってほしい。

議長＝タイトルの問題か。やわらかめのタイトルを。

委員G＝タイトルも中身も両方。タイトルとは違って見て楽しかったことはある。

委員E＝「おかざきっ子展」はすごくいい企画だと思う、別な話にはなるが、小中学生が展覧会に学校から先生と一緒に来て、解説を受けながら見られる日が作れないか。大英博物館では子供たちが、先生たちと一生懸命説明しながら見ていた。博物館に来て解説を受け、それが身になるとかならないというよりも、みんなで来て楽しく見る習慣が大切だと思う。10人いて10人が美術好きになるわけではなくていい、その中の1人でも2人でも美術に興味を持つ子が出てくればいい。私の子供のころは籠田公園で「おかざきっ子展」をやっていて、みんなで小学校から見に行き、いい経験でした。1人で見るとより、友達と見るのもいい経験だった。連携があると面白い。

一般の方には、この日は子供がたくさん来ますとアナウンスしておけばよいのでは。

委員H＝「おかざきっ子展」をギネスにのせる話がある。60周年で、幼小中までの展

覧会はなかなかない。この機会に美術の好きな子、造形の好きな子が1人でも芽生えてくれればいい。

議長＝ご意見が特にないようですので、ここでお諮りします。令和9年度開催予定の展覧会計画を執り進めることについて、承認していただけますか。

(全員承認)

議長＝令和9年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、先程までの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「3 その他」について、事務局から説明をお願いします。

### 次第3 その他

事務局＝(条例の一部改正を報告資料に沿って説明)

議長＝本件につきまして何かご意見等ございますでしょうか。

委員E＝美術館の使用について、提案、要望を出したい。今回値上げが1.5倍ということで上がるのは問題ないが、値を上げるなら使いやすい美術館を目指してほしい。今問題があるのは本館の第3第4展示室、天井の高い会場で展示用のワイヤーの取り扱いが高すぎて難しい。利用者の高齢化が進み安全を考えると不安な状態。リフトもあるが、大きくて使いにくい。はしごもあるが、天井まで届くはしごは、かなり不安な状況。ワイヤーの動きをスムーズにして、中間に展示する木を入れるとか、会場の設備を整えば値上げも、問題にはならないと思う。現状維持で、値上げだけは、残念だ。東館の第6展示室は、壁がコンクリートでピンが打てない。キャプションもつけられない。以前は練ゴムを使ったが、1年でダメになった。展示する側は見やすい展示を心がけている、オーソドックスな展示ができるような方法を考えてほしい。古い美術館なので、雨漏り等いろいろ不備があると思うが、値上げするなら考えてほしい。

委員D＝作家や、岡崎の方が自由に使えるギャラリーはそうあるわけではない、非常に素晴らしい施設なのでこれからも活用していきたい。美術館条例の一部改正で閉館時間が5時までとある。美術協会の会員及び利用団体に対するアンケートで、どのような設問か事務局に聞いた、岡崎市美術館における展示会の終了時間に関するアンケート、展覧会の終了時間というアンケートで美術協会は5時をよしとしたとなっている、鑑賞が終わる時間という意味でアンケートは答えた、4月以降に借りる手続きをしたところ、美術館利用手引きと、展示室利用に関してのお願いの2通渡されている。展覧会の鑑賞時間は5時まででいいが、展覧会をひらくと搬入搬出の時間が必要になる。せつかくいい施設で美術館の稼働率はかなり高いはずで、より使いやすく、先ほど委員Eも言われたように、古い施設でさまざまな問題があるが、搬入搬出の時間も配慮してほしい。

事務局＝ご意見は真摯に受け止めていきたい。第3第4の展示室、天井が高いのでリフ

トを使いワイヤーを移動するという運用をしている。構造上難しいが、何か対策ができないか検討する。数年前にワイヤーを変更して工夫はしている。2つ目の東館については、ご承知のとおり旧図書館として使われていた施設を転用して美術館の展示スペースとして活用しているため、使いにくい点をご指摘のとおりであり、一部の壁はピンを打てる壁にはなっていない。雨漏りについては、毎年改善の対策をしている。今年は、強風で大雨があった日の1回のみ雨漏りをしただけで、それ以外は雨漏りをしていない。今までの改善策が功を奏している状況にある。さらに、引き続きの対策として、来年度に向けて雨漏り対策の費用の要求をしているところである。委員Dのご意見は、事前に内容をお伺いしており、非常に難しい面がある。今の運用では貸し出しをしている時間の中に搬出時間も含めており、時間延長の希望をされる場合は、個別に事前の相談に応じたい。

委員D＝朝はどうですか。朝9時からというのは。

事務局＝開始時間は、今回の条例改正による変更はしておらず、開館前の準備、近隣の騒音等の課題があり、9時半と決まった経緯がある。早めるとなると検討が必要になる。

議長＝では本件これでよろしいでしょうか。

事務局＝地域文化広場から大屋根について報告する。令和6年の秋に着工したふれあい広場の大屋根は今年度11月に無事に完成し、11月9日にオープニングイベントを開催した。地元美合小学校の合奏部、シビックセンターのイベントとしてオータムコンサートが開催され、華やかに盛り上げた。その後11月末には地元の幼稚園、父兄同伴400人以上の人数で遠足に使い、3月には三河葵地区のボーイスカウト250人が開催するイベントがある。

議長＝これにて議事を終了させていただきます。

## 閉会あいさつ

特任館長＝いろいろなご意見をいただきありがとうございました。それぞれ興味深い意見で検討していかなければいけないことが多々ある。それぞれの担当学芸員に個別に話をしていく。岡崎市の三河の中世は、最も大きな問題として岡崎市美術博物館で取り組まないといけない。資料がどの程度あるのかわからないが、もうそろそろ、家康様一強というか、何でもかんでも家康公という時代ではない。細川とか一色、吉良、西尾、幡豆も含めて大きな歴史的な展示ができるはずです。それは学芸員に発破をかけているがなかなか資料が少ないこともあり、いずれも家康以前の岡崎の中世という大きなテーマを掲げて何かできないかなと思っている。

事務局＝以上で令和7年度第2回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。次回は7月に令和8年度の第1回会議を予定しておりますので、よろしく願います。本日はありがとうございました。

—以上—